

# 国土ニュース

第253号 令和5年11月1日  
発行：株式会社国土工営（認定経営革新等支援機関）  
〒162-0814 東京都新宿区新小川町6-36 S&Sビル2階  
TEL：03-5227-3601 FAX：03-5227-3604  
<https://www.kokudokoue1.co.jp>  
編集責任者：上甲 寛

## 自筆証書遺言「自筆以外」の作成も可に

10月2日（月）の読売新聞オンライン版にて、現状遺言者本人の手書きと押印が義務づけられている「自筆証書遺言」について、今後デジタル機器での作成を解禁する方向で議論するとの記載がありました。

安全な遺言書作成の手段としては、「公正証書遺言」があります。公正証書遺言とは、公証役場の公証人が作成して、「公正証書」という形で残す遺言書です。メリットは、1.偽造や変造の恐れがない 2.公証役場で保存されるため紛失の恐れがない 3.家庭裁判所による検認が必要ない 4.署名などの文字が書けない、口がきけない、耳が聞こえない人でも作成できる 等が挙げられます。但し、遺言書に記載する財産額に応じて、数万円から数十万円の費用が発生する点や、公証役場まで出向かなければならない点（出張も有り）がネックとなります。（下図出典：読売新聞オンラインHP）

自筆証書遺言は、手軽で且つ、手数料をかけずに作れることがメリットですが、民法ではその全文と日付、名前を本人が手書きし、押印しなければならないと規定しています。そのため、相続人や相続財産が多くて長文になる場合は作成時の負担が重い上、日付や押印を欠いてしまう場合など、書式に不備があれば「無効になるリスク」もあります。財産目録については、既に2019年1月13日からワープロ等手書き以外の作成が認められていますが、未だ作成者本人の負担が大きいのが実情です。

パソコンやスマホ等のデジタル機器は、今や全世代に普及しつつあり、今後も加速度的に増加が見込まれます。遺言書の作成が容易になることは、遺言書の活用で相続時の家族間の争いを未然に防ぐためにも望ましいことですが、今後の議論としては、遺言者本人の真意の確認の問題や、改ざんを防ぐための仕組み作り等が焦点となります。本人が書いたものと確認するため、1.手書きの署名を入れる 2.電子署名の活用 3.入力する様子を録画 といっ

た案が検討されるようです。合わせて、高齢者に代わって家族が入力することを認めるか否かについても議論されるとみられます。

上記が正式に認められると、遺言書の作成がグッと身近になりますので、これからの更なる利用促進のための法制度整備を期待したいと思います。

## 完全制覇

10月11日（水）に京都府京都市「ウェスティン都ホテル京都」で行われた、第71期王座戦五番勝負第4局で、挑戦者で、既に王座以外の七冠を奪取していた藤井聡太竜王・名人（21）が、永瀬拓矢王座（31）に勝利し、通算3勝1敗で最後の一冠を奪取しました。これによって、現在日本将棋連盟が主催する「全八冠」を達成しました。

全冠独占したのは、1996年に当時の七冠を奪取した羽生善治九段以来実に27年振りで、2015年（平成27年）に叡王戦がタイトル戦に加わって八冠となってからは、初めての全タイトル独占者となりました。

将棋のタイトルは、1937年（昭和12年）に実力制名人

全冠独占達成者一覧表

冠数	獲得タイトル名（左から獲得順）	達成年月日	達成者
八冠	棋聖 王位 叡王 竜王 王将 棋王 名人 王座	2023年10月11日	藤井聡太
七冠	棋王 王座 棋聖 王位 名人 竜王 王将	1996年2月14日	羽生善治
五冠	王将 名人 王位 十段 棋聖	1963年2月2日	大山康晴
四冠	王将 九段 名人 王位	1960年9月20日	大山康晴
三冠	王将 九段 名人	1959年6月12日	大山康晴
三冠	王将 九段 名人	1957年7月11日	升田幸三

※タイトル名は獲得順

※九段、十段は竜王の前身

出典：（社）日本将棋連盟HP

戦がスタートし、1950年（昭和25年）に九段（現在の竜王）戦が加わりました。翌1951年に王将戦がスタートし、全三冠（名人・九段・王将）となってから既に72年経ちましたが、過去に全タイトルを奪取した棋士は、藤井聡太竜王・名人を含め、4人しかいません（上記表参照）。

将棋のタイトル戦は、上述の通り全部で八冠ありますが、全て対局形式が異なります。

対局数がプロ野球の日本シリーズのような、七番勝負（先に4勝した方がタイトル奪取）もあれば、五番勝負（先に3勝した方がタイトル奪取）もあります。また、対局日が1日制のものもあれば2日間に跨って戦うものもあります。持ち時間についても、最短4時間（持ち時間を使った後は、1分将棋）から、最長で9時間と、気の遠くなる様な持ち時間で戦うものもあります。挑戦者の決定方式も異なるため、短距離

出典：日本経済新聞

## タイトル戦ごとに番勝負や挑戦者を決める仕組みは異なる

棋戦	挑戦者手合い	持ち時間	挑戦者を決める最終段階
王座戦	五番勝負	5時間（1日制）	16人による挑戦者決定トーナメント
竜王戦	七番勝負	8時間（2日制）	ランキング戦優勝者ら11人による決勝トーナメント
名人戦	七番勝負	9時間（2日制）	10人によるA級順位戦リーグ
王位戦	七番勝負	8時間（2日制）	各6人による紅白リーグ優勝者同士で決定戦
叡王戦	五番勝負	4時間（1日制）	各段ごとの予選勝者ら16人による本戦トーナメント
棋王戦	五番勝負	4時間（1日制）	30人強による挑戦者決定トーナメント。敗者復活戦あり
王将戦	七番勝負	8時間（2日制）	7人による挑戦者決定リーグ
棋聖戦	五番勝負	4時間（1日制）	16人による決勝トーナメント

から長距離、障害物といった様々なシチュエーションで戦える圧倒的な能力を持つオールラウンダーでない、全冠独占は決して出来ません。

タイトル数が少なかった昔とは異なり、羽生善治九段が七冠を独占した頃からは、タイトルの防衛が至難の業となっており、羽生九段が四冠・五冠のタイトルを数年防衛していた他は、様々な棋士がタイトルを分け合う「戦国時代」となっていました。これを藤井聡太竜王・名人が全て独占し、新たな時代がスタートしています。この状態が一体いつまで続くのでしょうか。

話は変わって10月15日(日)、将棋の王座戦と同じ京都府京都市にある京都競馬場にて、牝馬三冠の最終戦、「秋華賞」が行われ、圧倒的1番人気に推されたリバティアイランドが優勝し、史上7頭目となる3歳牝馬の「三冠を達成」しました。

JRA3歳クラシック競争三冠馬一覧

牡馬	牝馬
1941年 セントライト	1986年 メジロラモーヌ
1964年 シンザン	2003年 スティルインラブ
1983年 ミスターシービー	2010年 アパパネ
1984年 シンボリルドルフ	2012年 ジェンティルドンナ
1994年 ナリタブライアン	2018年 アーモンドアイ
2005年 ディープインパクト	2020年 デアリングタクト
2011年 オルフェーヴル	2023年 リバティアイランド
2020年 コントレイル	

牡馬三冠は皐月賞、日本ダービー、菊花賞、牝馬三冠は桜花賞、オークス、秋華賞（メジロラモーヌのみ前身のエリザベス女王杯）

競馬の世界では、牡馬（オス馬）、牝馬（メス馬）共に3歳時に、一生で一度しか走れないクラシック競争という特別な三冠レースが設けられています。

牡馬のクラシック競争は、競馬の発祥国である英国の三冠レース（2000ギニー、ダービー、セントレジャー）を模して、1932年（昭和7年）最初に日本ダービーが創設されました。1938年（昭和13年）には菊花賞（セントレジャーを模したもの）、翌39年（昭和14年）に皐月賞（2000ギニーを模したもの）が始まり、本場英国と同様に三冠レースとなりました。

最初に三冠馬となったのは、1941年（昭和16年）のセントライトです。ちなみに、三冠レースが誕生してから既に84年経過していますが、三冠馬は前述のセントライトを含め僅か8頭しかいません。逆に言うと、ほぼ10年に1頭の間隔で三冠馬が誕生していることになります。

牝馬の三冠は成立が遅く、現行の三冠が確立したのは1996年（平成8年）の秋華賞創設からとなります。秋華賞以外の二冠は牡馬同様、英国の牝馬クラシックを模して創設され、まず1938年にオークス（英国もオークス）が、翌39年には桜花賞（英国の1000ギニー）が創設され、長らく二冠のままでした。これは、英国にも牝馬のみの三冠目のレースがない（牝馬の三冠目は牡馬の三冠目と同じセントレジャー）からだと思われます。

興味深いのは、牝馬の場合1996年の秋華賞誕生から27年しか経っていませんが、2003年以降6頭もの三冠馬が

誕生していることです。特に2010年以降は、2～3年に一度三冠馬が誕生しており、牡馬の10年に一度とは大きく間隔が異なる点です。

牡馬の三冠と牝馬の三冠は互いのレース開催日が1週間しか変わりませんので、季節等の問題はなさそうです。あるとすると、距離の差なのかもしれません。牡馬は皐月賞から2000メートル→ダービー2400メートル→菊花賞3000メートルと1000メートル伸びています。これに対し牝馬は、桜花賞1600メートルからオークス2400メートルと一気に伸びますが、秋華賞では2000メートルと距離が縮まります。

3000メートルは、競馬の中では長距離のカテゴリーに入るため、スタミナが要求されます。2000メートルでは対照的にスピードと瞬発力が求められるため、全く異なる能力を試されます。両レースを勝つためには、絶対的な能力を持つオールラウンダーでなければならないことは既に歴史が証明しています。

牡馬、牝馬を合わせ、唯一の現役三冠馬であるリバティアイランドは、次走でジャパンカップ（11月26日：二冠目で勝利したオークスと同じ東京の芝2400メートル）を予定しており、そこで、現在競馬の世界ランキング1位で目下G1レース（最高格付け）5連勝中（しかも10月31日の天皇賞秋で、コースレコードにて勝利）の現役世界最強馬、イクイノックスと激突することが決まっています。

人間の世界では、陸上の主要競争で男女混合レースはありませんが、競馬の世界では、斤量（馬が背負う騎手を含めた重さ）を変えることで同じレースを走ることが出来ます。一体どちらが強いのか、今から楽しみです。

トリニテシステム業務提携先（令和5年11月現在）

- 東京税理士協同組合
- 東京地方税理士協同組合
- 千葉県税理士協同組合
- 埼玉県税理士協同組合
- 名古屋税理士協同組合
- 東海税理士協同組合
- 京都税理士協同組合
- 滋賀県税理士協同組合
- 大阪・奈良税理士協同組合
- 神戸税理士協同組合
- 阪神三税協（伊丹・尼崎・西宮）



国土工営では

- ①土地資産家のお客様の相続対策・納税対策
- ②保有資産の収益力向上・資産の組換えなど資産強化策
- ③自社株評価補助・事業承継税制の活用等法人対策
- ④中小企業のM&A、事業再生

などを手がけております。各分野の専門家が調査・実務を担当いたしますので、お気軽にご相談ください。

本 社：03-5227-3601  
 横浜支店：045-651-2841  
 名古屋支店：052-588-2322  
 関西支店：075-212-2801  
**大阪事務所：06-6676-7330（番号変更）**